
空からの使者

奏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空からの使者

【Nコード】

N6389I

【作者名】

奏

【あらすじ】

D・Gray・manのパロ。

アレンがリナリーたちのいる世界へと空間を越えてやってくるストーリー。

珍しい真っ白い髪と不思議な左目と左腕を持ち、おまけに不死のアレン・ウォーカーは1人寂しく森の中に住んでいた。もう悲しむ気も失せた彼の前に眩い光が現れる。

その光はこう名乗った。

「
」

その名前は良く知っている名前だった。

空からの使者 1

森が明るくなった。

小さな鳥たちは朝を告げるかのようにせわしなく鳴き始める。

森にポツリとたたずむ家にも太陽の光が降り注いだ。

薄手のカーテンを突き抜けて日の光がベットに居た少年に当たった。

気だるそうにその光を手で遮った。

その動作で真っ白い髪がサラリと流れた。

「また朝が来た・・・」

空からの使者 1

やることも無く僕は朝から窓辺のロッキングチェアに腰掛けて読書をしていた。

題名は D・Gray・man。

エクソシストと千年伯爵が世界を賭けて闘う物語だ。

この中の登場する人物は個性的で明るくて、仲が良く見えた。

つまなくなつて本を閉じ、足をバタバタさせた。

椅子がギイギイ悲鳴を上げた。

僕にもこんな友達が居るといいのになつていつも思う。

生まれて今まで人と仲良く接したことが無かつたから。

もう悲しいとは思わないけど、思い出すと胸が苦しくなる。

それでも誰かと接していたって思うときもある。

でも、それも叶わない。

僕は化け物だから。

髪は真っ白だし、左頬には真っ赤な傷跡がくつきりつついてる。

左腕は火傷したみたいにただれてるし、何より僕は死ななかつた。

言い方が変かな、簡単に言えば不死だ。

そのせいで人から遠ざけられ、今は森の中に住んでいる。

そろそろ町に食べ物買いに行かないと。

そんなことを考えてたら目の前にまぶしい光が現れた。

「うわあっ！」

勢い良く身を引いたから椅子から落ちそうになった。

《我を呼んだのは汝か？》

驚いた、突然現れた発光体が問いかけてきた。

こんな光る物（？）を読んだ覚えが無かったため素直に答えた。

「……読んだ覚えはありませんが……」

《別の世界へに行きたいとは願っていないかったか？》

まさか、そんなことできるはずが無い。

《我はイノセンス、汝を別世界へと誘う者なり》

イノセンス？僕が持っている小説じゃないか。

一度行きたいと思ってたし、行ってみてもいいかもしれない。

「連れて行ってください」

《……承知した》

僕はその光に飲み込まれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6389i/>

空からの使者

2010年10月9日06時26分発行